

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2674000308
法人名	アサヒケアサービス株式会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	〒610-1104 京都市西京区大枝中山町2-41 (電話) 075-333-3266

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成21年12月7日	評価確定日	平成22年2月10日

## 【情報提供票より】(平成21年11月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.9 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造りスレート葺		
	3 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷 金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	800 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 72 歳	最高 89 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西京都病院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都府下に幾つかのグループホームやデイサービスを展開する法人の運営するホームの1つです。国道9号線のバス停前にありますが周辺は閑寂な住宅街に繋がっています。ホームでは地域連携を課題に掲げ、今年度は大きく変わりつつあります。前回の評価を受け地域への浸透と、ホームに対する認知度を上げて行く事を、職員間で話し合い、3階のスペースを地域に開放し外からの来訪者を増やす中で地域とのつながりを深めています。フラダンスのクラブなどの同好会等が利用されており、利用者が見学することを楽しみにされています。更にバザーを企画し、地域の方々にホームに足を運んで頂き、交流の発展がなされています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題とその後の取り組みについては、職員間で話し合い、地域の方々にどうホームを知って頂けるかと検討し、3階のスペースの地域への提供とバザーが実施されました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、申し送り時に項目を決めて意見を出し合い検討し、改善課題を洗い出す事が出来ました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の開催は、地域包括支援センター職員、地域社協会長、自治会長、民生委員が参加して行われている。意見が少なく参加するのも大変であるという声の中で、今年度は2回のみ開催となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には職員に気軽に声がかかり、意見や要望を聞いています。毎月便りを出し、その中で意見をもらえるような声かけを行っています。また玄関に意見箱を設置し意見を言いやすい体制を作っています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事である町内清掃や地域防災訓練などに参加しています。また毎週行われている健やか学級や敬老会への参加で顔見知りとなった方々との挨拶が交わされるなど、地域との生き生きとした交流が育まれている。また、地域の方々にも呼び掛け、ホームでバザーを開催し、地域との関わりをより深めています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム立ち上げ時に職員で話し合い作られた理念は、「心いきいき、心楽しく、その人らしく」と謳っている。地域の交わりを深め、交流を大切に考えられているが、地域への思いを理念に込めるには至っていません。	○	地域密着という意味を実践に反映されていますが、一度職員間で理念について意見を交えられては如何でしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は誰もが見えるように額に入れ掲示しており、職員の入職時には理念を伝え話をしている。意図的には検討されていないが、カンファレンス時などには「その人らしく」を意識して支援の検討をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事である町内清掃や地域防災訓練などに参加している。また毎週行われている健やか学級や敬老会への参加で顔見知りとなった方々の挨拶が交わされるなど、地域との生き生きした交流が育まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での主な改善課題とその後の取り組みについては、職員間で話し合い、地域の方々にどうホームを知って頂けるかと検討し、3階のスペースを地域に提供する事で地域に向けたアピールに考え展開している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、地域社協会長、自治会長、民生委員が参加して行われている。意見が少なく参加するのも大変であるという声の中で、今年度は2回のみ運開催となっている。	○	運営推進会議の中からの意見で回数が減っているという状況はあるが、地域の状況も含めた検討がなされたり、地域も参加される行事の提案などの企画で定例化が進むように期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度、市の主催する連絡調整会議が行われており、行政の動き等の情報をもらったり、ホームの空き状況などの報告をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者が利用者の様子を書き、写真付きの便りを送っている。家族から返事が来るとも喜びられる取り組みとなっている。また、季刊誌を発行してホームの行事や様子、職員の異動などを報告している。金銭管理は、預かり金で対応されており、出納帳のコピーと領収書を送り確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や行事参加の折に家族から意見や要望を聞きだすようにしており、また家族も気軽に意見や要望を話して下さるなど話し合える関わりとなっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人では年に一度個人面談を行い要望を聞く開会を設けている。管理者は、職員の様子を見ながら、気になるような事があればメールのやり取りや話し合い、体調も含めて相談している。新任の職員に対しては、ベテラン職員がフォローしながら、利用者の様子や情報を伝え、馴染みの関係作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や実践者研修などに職員を派遣し、研修の機会を設けている。月例の会議の中でも研修は時々行われているが、定例化しておらず、管理者は機会を設けていきたい意向である。	○	研修を計画的に行えるようにされ、職員の研修機会を増やすなど工夫がなされる事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の会議で管理者の交流は毎月行われており、職員の交換研修にも取り組んだ経緯はあるが継続されていない。	○	法人の意向のなかでグループホーム協議会への参加はされていないが、近隣のグループホームへの呼びかけなどで、交流や地域のネットワークの機会を見つけられては如何でしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な方には利用者も含めた見学を勧めている。訪問や面談のなかで、利用者の様子や多くの情報を収集する事で利用者理解に繋げている。入居後には利用者とコミュニケーションを多くとり馴染みの関わりに繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で、かつての仕事や生活の中での多くの知識や知恵を利用者から教えられることが多い。調理や食事作りに力を発揮され、いつの間にか浅漬けなどが作られていたり、調理のコツなど生活の知恵が伝授されている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ情報を収集している。家族から見た本人の思いなどを記録いただいたり、生活歴や日々の生活の中に見る利用者の表情や行動等から思いを把握し記録に繋げている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの作成に当たっては、本人や家族の意向を反映しつつ職員、看護師の意見を聞き作成している。また、日々のケアの記録は時系列で行い、ケアプラン実施表と合わせてチェックし、特記や追記で評価に繋げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い職員や看護師の意見を反映しつつモニタリング、見直しに繋げている。状況に変化がある場合は現状に即した見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の行けない時には通院介助を行っている。時代祭りの見物や仏壇のお供え物を買に行くなど、利用者の思いの実現に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の意向を聞き、利用者や家族の意向を尊重している。協力医からは2週間に一度の往診があり、24時間連絡が取れ指示頂ける関わりがある。また、歯科医については、訪問歯科の往診を検討中である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、法人の看取りに対する方針を伝え、重度化の中で利用できなくなる場合の状況などを話している。今後に向けた家族との話し合いをもち、基準を設けたいと考えておられるが、確定には至っていない。	○	利用者が少しずつ重度化していく中で、自分達ができる事をその思いも含めて職員間で検討されては如何でしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時には職員に向けたプライバシーへの姿勢を伝え、日々の声かけに注意を払っている。親しみの中で、馴れ合いにならないように心がけており、不適切な言動がある場合などは注意し合っている。個人記録などの書類は、書庫に適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースに合わせて生活が展開するように支援している。行事や行動においては、少人数で行うようにしており、利用者の要望に沿うように心がけている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に献立を考え食材を発注し、食材を届けたりもらっており、時には足りないものを買物に行くなどしている。味付けや調理の仕方など利用者へアドバイスを頂きながら職員と共に作り、テーブルを囲んでいる。夏場などは収穫物のミニトマトなどが食卓にのこることもあり、楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日の入浴でも可能で、普段は午後から夕方までを入浴時間としている。拒否傾向の方には時間を変えたり声かけを工夫しつつ入浴に繋げている。またダイダイ湯にしたり季節を取り入れる工夫をすることもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野で多くの役割を果たして頂けるようにしており、郵便物の取り込みや、畑の野菜作り、元看護師さんにバイタルサインのチェックをお願いすることなど細かな役割で張り合いのある生活に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々散歩は頻繁には出来ていないが、天気の良い日には買い物を兼ねて散歩に出かけたり、庭でお茶を楽しむなど外気浴を心がけている。重度化するの中で全員で出かける機会を見つけるのが難しくなっているが、春にはお花見に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵を掛けないケアに対する理解をしており、門扉の施錠はされているが、玄関は日中施錠されていない。施錠されている居室が一室あるが状況や事情を家族に伝え、理解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っており、一度は防署の立会いのもとに、一度は夜間想定でホーム独自で行っている。地域の防災訓練に職員が参加しているが地域への呼びかけには至っていない。	○	地域への働きかけを課題と考えられており、具体的な提案に繋がるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を把握し、チェック表に記録している。魚料理を中心に多くの野菜が摂れるように、心がけている。時には振り返り意見を出し合ったり、栄養士に話を聞く機会を設けている。体調によっては粥などに変更するなど利用者の様子を見て対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの写真が額に入って、多くの思い出と共に飾られている。あちこちにソファが置かれ好みの場が選ばれていたり、2階には畳コーナーが設置され炬燵やテレビなどがありくつろぎのスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参下さいと入居時に勧めており、利用者は思い思いの物を持ち込まれている。居室の備え付けの押し入れはたっぷりの収納があり、ソファやテレビ、飾り物やかつて書かれた絵画や手作りの小物などそれぞれの思いに包まれ安心できる空間となっている。		